

事業内容、事業の成果に関する写真

(ア) 有機大麦・小麦の栽培、製品作成指導

	
<p>【1】 種蒔き直後の農地の様子。(2012年12月)</p>	<p>【2】 現地農業技師(右)による大麦・小麦の訪問栽培指導の様子。1件ずつ農地を訪問し、裨益者一人一人に対して指導を行う。(2013年2月)</p>
	
<p>【3】 小麦の農地に有機肥料を散布する裨益者。降雨量や生育状況を踏まえ、有機肥料による追肥を行った。(2013年2月)</p>	<p>【4】 小麦の収穫の様子。収穫機で刈り取った小麦を脱穀機にかける裨益者。(2013年6月)</p>
	
<p>【5】 小麦の製粉作業の様子。(2013年7月)</p>	<p>【6】 製品化した小麦粉。関係団体を通じて、フェアトレードショップや、ラマダン用のキャンペーンで販売された。(2013年8月)</p>



【7】新しく使用する農地の耕耘作業を行う裨益者。敷地内の石やゴミを取り除き、秋の種蒔きに備える。(2013年8月)



【8】今後の栽培計画に関するミーティングの様子。大麦小麦のコンポーネントでは、地元の農業組合が中心となって裨益者をまとめている。(2013年11月)



【9】雨期を前に麦の種蒔きの準備を進める裨益者。(2013年12月)



【10】井戸と農地をつなぐ配水パイプの設置工事の様子。設置完了後は、低コストで安定的に灌漑用水を確保することができる。(2013年12月)



【11】日本人専門家による、有機認証取得に向けたワークショップの様子。(2014年1月)



【12】大麦と小麦の発芽が始まった有機農場の様子。(2014年1月)

(イ) 家庭有機農業（P C農法）の導入



【13】裨益者選定のため、参加希望者の家庭を訪問するNICCO 現地スタッフ(左)。1件ずつ家庭を訪問して、家庭環境や参加意欲の確認を行った。(2013年3月)



【14】日本人有機認証専門家(左から2人目)によるワークショップの様子。JASの有機認証制度を参考に、有機認証の申請に際して必要となる基本的な知識を学んだ。(2013年4月)



【15】灌漑設備の設置の様子。現地農業技師の監督の下、各菜園の周辺環境に合わせてデザインする。(2013年5月)



【16】苗木の配布の様子。現地農業技師(左)が各菜園を1件ずつ訪問し、作付けの手順や適切な灌漑方法について指導を行う。(2013年6月)



【17】現地の専門家による有機農業に関するワークショップの様子。2日間の講習を通じて、有機農業の実践に必要な基礎知識を学んだ。(2013年7月)



【18】トマトの栽培について裨益者に説明する現地農業技師(中央)と日本人スタッフ(右)。定期的に各菜園を訪問して成育状況を確認し、きめ細かな指導を行う。(2013年8月)



【19】裨益者ミーティングの様子。裨益者同士が定期的集まり、菜園での問題点等について情報共有を行う。(2013年9月)



【20】日本人専門家(左2名)による訪問指導の様子。裨益者が抱える様々な疑問に対して、一つずつ丁寧に対応する。(2014年1月)



【21】野菜の苗木を配布し、作付けの手順や栽培方法について裨益者に説明する現地農業技師(左)。(2014年1月)



【22】家庭菜園の外観。(2014年1月)

(ウ) 女性を対象とした加工食品作成技術の指導



【23】パレスチナ経済省の主催によるワークショップの様子。女性グループの収入創出活動における公式な手続きや、政府による支援体制等について情報を収集した。(2013年6月)



【24】フェアトレードに関するワークショップの様子。加工品の販売や認証プロセス等、フェアトレードに関する基礎知識を学んだ。(2013年6月)



【25】フードセーフティのワークショップの様子。食品の安全性に関する基礎知識や、生産者としての責任について学ぶ。(2013年9月)



【26】ドライフードのワークショップの様子。家庭菜園で収穫したトマトを使用して、サンドライトマトを作る。(2013年9月)



【27】小麦を使用した中東の伝統的な加工食品マフトウール(クスクス)作りのワークショップの様子。(2013年10月)



【28】大麦を使用したハーブティーのサンプル。家庭菜園で栽培を予定しているハーブを使用し、講師と意見交換を重ねながら作成した。ワークショップで加工法を指導した後、生産に移る。(2013年11月)



【29】家庭菜園で栽培可能なハーブや野菜を使用したクッキーやマフィンのサンプル試食会の様子。どのようなレシピが受け入れられるか意見を交換し、ワークショップで作成する品目を皆で選ぶ。(2013年11月)



【30】タイムとホットペッパーを使用したスパイス作りのワークショップの様子。(2014年1月)



【31】完成した加工食品の数々。ラマツラの展示会にて。
(2014年1月)



【32】展示会場で商品の説明を行う女性裨益者(左2名)。
(2014年1月)

(エ) 土地の有効利用を目的とした植樹



【33】苗木の配布に際して、植え方を実演する現地農業技師(左)。6ヶ所の公共施設に計400本の苗木を配布した。
(2014年1月)



【34】水不足の問題を抱える当地での栽培に適したオリーブ、パッションフルーツ、イチジクの苗木を配布した。(2014年1月)

(その他、国内広報啓発活動)



【35】「パレスチナフェスティバル2013」の様子。活動紹介ブースを出展し、本事業での取組みと前事業地で生産されたオリーブオイルを紹介した。(2013年10月)



【36】日本中近東アフリカ婦人会「第17回チャリティバザー」の様子。前事業地で生産されたオリーブオイルを出展し、本事業での取組みについて説明を行った。(2013年10月)